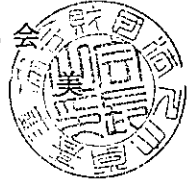


大基委大評第 269 号

平成 23 年 3 月 11 日

同 志 社 大 学
学 長 八 田 英 二 殿

財団法人 大学基準協会
会 長 納 谷 廣



貴大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

添付資料 「改善報告書検討結果（同志社大学）」

以上

＜ 改善報告書検討結果（同志社大学） ＞

[1] 概評

2006（平成18）年度の本協会による相互評価に際し、問題点の指摘に関する助言として16項目の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

学生の受け入れについては、社会学部全体の収容定員に対する在籍学生数比率が1.24と相互評価受審時と同じ数値であるものの、メディア学科においては同比率が1.32とさらに高くなっており、改善されていない。また、神学部においても同比率が1.26と高いので、さらなる改善への取り組みが求められる。

研究環境については、文学部と工学部における教員の担当授業時間数の偏りは改善されていないことから、今後も改善に努めることが求められる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上